

各地域ブロックにおけるモデル事業の実施状況

＜災害廃棄物処理計画等策定 モデル事業数＞

地域ブロック	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
北海道		4 (12)	6 (10)	10 (22)		
東北		3 (8)	6 (9)	5 (17)		3 (3)
関東	3(20)	2 (21)	4 (5)	5 (5)	4 (4)	3 (3)
中部		2 (23)	2 (2)	6 (25)	2 (2)	
近畿		2 (25)	10 (10)	5 (18)	3 (5)	
中国・四国		6 (25)	4 (9)	9 (38)		
九州		5 (55)		2 (3)		
合計		24 (169)	32 (45)	42 (128)	9 (11)	6 (6)

※()内数値はモデル事業への参加自治体数を示す

＜図上演習・仮設処理施設設置検討・適正処理困難物等 モデル事業数＞

地域ブロック	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
北海道		2				
東北		—		1		
関東	2	2	1	1		
中部		1	2		1	4
近畿		2	2	2	1	
中国・四国		2		1	1	
九州		1		4		
合計		10	5	9	3	4

※これらとは別に、各ブロックにおいて個別に図上演習を実施している都道府県もある

国、都県、自治体による連携・協働型災害廃棄物処理計画策定事業（進捗状況報告）

◆ モデル事業の概要

- ・ 災害廃棄物対応は都県や市町村等の自治体が連携することが重要であり、平時から調整・協議して対応を検討しておくことが必要である。
- ・ そのため、本事業では、モデル市町村と都県・国が対話形式によって災害廃棄物処理計画を策定するスタイルの事業を実施。

◆ モデル市町村

- ・ 群馬県8市町村：渋川市、みどり市、邑楽町、大泉町、玉村町、千代田町、明和町、上野村
- ・ 千葉県6市町：大網白里市、山武市、東金市、八街市、芝山町、横芝光町
- ・ 新潟県6市：糸魚川市、胎内市、燕市、十日町市、見附市、村上市

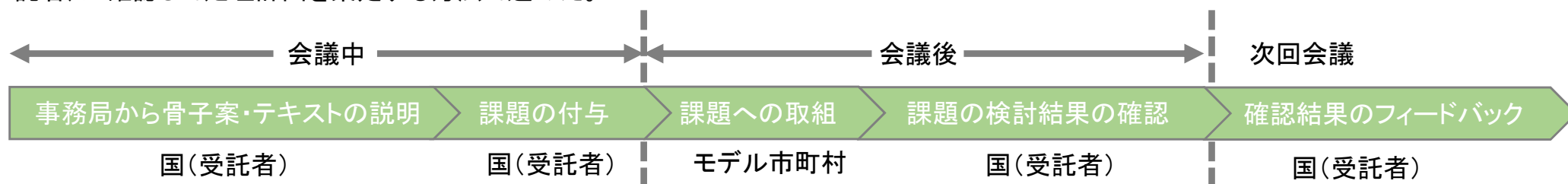
◆ 使用した主な資料

- ・ 災害廃棄物処理計画**骨子案**・・・廃棄物処理の基本的な考え方を示すものであり、最低限盛り込むべき事項としてまとめたもの
- ・ 災害廃棄物処理計画策定のための**テキスト**・・・本モデル事業を進める上での参考図書

（※本事業は令和元年度から実施しており、骨子案・テキストは令和元年度に発生した災害で得られた教訓も踏まえて改定）

◆ モデル事業の進め方

- ・ **関係者会議**：「災害廃棄物処理計画**骨子案**」（60頁程度）と「災害廃棄物処理計画策定のための**テキスト**」（200頁程度）を用いて国（受託者）から災害廃棄物対応に関する説明を行った上で、モデル市町村に対して課題を付与し、会議後にモデル市町村が課題に取り組み、その取組結果を国（受託者）が確認して処理計画を策定する方法で進めた。



- ・ **簡易な机上演習**：災害時において頻繁に課題となる事項を参加者へ投げかけ、どのような対応を取るかを考え、グループで議論する形式で実施。
- ・ **意見交換会**：庁内関係部局の理解を得て災害時に迅速に連携して災害廃棄物へ対応できるよう、災害廃棄物処理に関する意見交換会を開催
- ・ **情報交換会**：モデル市町村間で課題や悩みを共有し、お互いが持つ知見を共有することで、更なる取組加速を目的として開催。

国、都県、自治体による連携・協働型災害廃棄物処理計画策定事業（進捗状況報告）

◆ 今年度の特徴（昨年度からの改善点）

- 市町村が躓くことが多い「**災害廃棄物の発生量の推計**」については、**穴埋め形式の問題**を事務局から提示して、会議中に**モデル市町村が自ら手を動かして推計作業**を実施。推計に用いるデータを事務局で準備。推計後は答え合わせを実施。令和元年度は、発生量推計に苦慮する自治体が多かったことから、令和2年度は第1回関係者会議の中で推計作業を行うことにした。
- 令和元年度よりもプログラムの進行を早め、意見交換会に注力できるよう年内に第3回関係者会議まで終了。
- 群馬県では、関係者会議の開催場所を自治体の持ち回りで開催したことで、開催自治体では担当課長も会議に出席できた。

第1回関係者会議（千葉県）
穴埋め形式の問題に取り組むモデル市町村職員の様子



机上演習（群馬県）の様子



◆ 事業の進捗状況 受け身のスタイルではなく、自ら考え、自ら手を動かして処理計画を策定していくスタイル

- 災害廃棄物処理計画の骨子案は概ね完成。
- 庁内関係部局との連携に向けて日程等の調整を行っていたが、1月に出された緊急事態宣言の影響により、第4回関係者会議、意見交換会、情報交換会については年度繰り越して4月以降に対面形式で開催予定。

国、都県、自治体による連携・協働型災害廃棄物処理計画策定事業 ～1年間のプログラム～



机上演習モデル事業（東京都多摩地域）

1. 演習の目的

- ① 停電時においてごみ処理事業を継続・維持するための必要事項・調整事項の検討
- ② 片付けごみの戸別回収の問題点、片付けごみの回収方法として戸別回収を選択せざるを得ない場合の対応事項・留意事項、住民へ協力を求める事項の検討

2. 演習の実施日時

- ・ A日程:12月24日(木)10:00～16:00
- ・ B日程:12月25日(金)10:00～16:00

3. 対象とした災害

- ・ 巨大台風(風水害)

4. 演習の対象自治体

- ・ 主に東京都多摩地域の市町村

5. 演習のテーマ

- ・ 停電時の対応
- ・ 片付けごみへの対応

6. 演習の手法

- ・ ファシリテーターから参加市町村に対して、災害発生時に頻繁に課題となることが多い事項を参加市町村へ投げかけ、参加市町村が回答する形式(問答形式)

7. その他特徴

- ・ 令和元年房総半島台風の被災地である館山市の職員や、支援経験が豊富な横浜市の職員にも参加いただき、自身の経験を参加者に伝えてもらう等、災害時の状況を具体的にイメージして演習に参加頂くよう工夫。
- ・ 参加者の回答は、記録係が記録することで、各自が成果を庁内に持ち帰ることができるようにした。記録係の配置することで、参加者が記録する時間を省略でき、演習に専念することを可能とした。



机上演習モデル事業(東京都多摩地域)



災害廃棄物に馴染みのない職員等に対してイメージ醸成や知識のインプットの場として、被災・支援経験を有する自治体職員による講演を実施

質問No. 6	被災 1 日後	回答時間：6 分
検討内容：片付けごみの戸別回収への対応 【質問内容：片付けごみの排出方法】 ● 浸水被害を受けた家屋は市内の広範囲に及んでおり、渋滞等の影響により生活ごみの回収も遅延している状況であるが、住民には片付けごみをどこに排出してもらうか。理由も合わせて説明してください。		

災害発生後の各フェーズで起こりうる課題(複数題)を付与して全員で議論。課題は、過去の災害で頻繁に発生した課題を設定。

◆ 参加した自治体の感想

- ・ 実際の災害の状況を想定して考える演習であり、自分たちが準備できていないことが分かった。
- ・ 受け身の演習ではなく、考えて必ず発言する形式を採用しているのが良かった。
- ・ 参加した他の自治体と意見交換して考えを聞くことができて参考になった。
- ・ 環境省やファシリテーターから経験談を聞けるのがよかった。

事前勉強会

演習の進め方

状況付与

演習の実施

演習の振り返り

被害の状況 (被災 2 日後)

自宅前等に排出されている片づけごみの状況



出典：館山市提供

時系列に、人的・建物の被害状況、交通(道路・鉄道・空港)、通信、ライフライン(電気・ガス・上下水道)、廃棄物処理施設の被害状況、災害廃棄物の排出状況等を付与

演習を振り返って、各自治体で不足している取組や持ち帰って取り組みたい事項を意見交換

◆ 進捗状況

合計2回の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、2回目は4月に降に延期。

机上演習モデル事業(平成31年度事業(千葉県))

1. 演習の背景・目的

<背景>

- 千葉県災害廃棄物処理計画(平成30年3月)において想定している3地震のうち、特に発生確率が高く、災害廃棄物発生量が多い千葉県北西部直下地震に係る体制の強化が急務な状況である。
- 県及び各市町村が策定した計画並びに県と市町村との連携体制について、発災初動期における混乱の中で適切かつ迅速に災害廃棄物処理に対応できるような実効性の高いものとなっているか検証が必要である。

<目的>

- 災害廃棄物処理計画の内容や県、支援自治体及び被災自治体の協力・連携の状況などについて、実効性を検証する。

2. 演習の概要

<対象災害>

- 千葉県北西部直下地震

<対象自治体>

- 東葛・葛南ゾーン及び千葉中央ゾーンの自治体及び組合

<対象フェーズ>

- 発災翌日～発災1週間程度

<実施日> 両日程ともWeb開催

1回目: 令和2年(2020年)2月9日(火)10:00～16:00 ※午前中は事前勉強会(講演)、午後は演習

2回目: 令和2年(2020年)2月16日(火)13:30～16:30

ゾーン	自治体名
東葛・葛南ゾーン	野田市、流山市、松戸市、柏市、我孫子市、鎌ヶ谷市、浦安市、市川市、船橋市、習志野市、八千代市、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合
千葉中央ゾーン	千葉市

3. 演習の内容

Web上でファシリテーターから参加者に対して問いかけを行い、参加者が回答する形式(問答形式)

① 自区域内及び当該ゾーン内の被害の様相の把握・共有

② 対応すべき主な業務の確認

ー被害状況の確認・報告

ー住民への周知・広報

ー生活ごみ・避難所ごみ・し尿の処理

ー片付けごみへの対応、仮置場の設置・管理

③ 支援要請に当たり検討しておくべき事項の整理

④ 県内市町村間での連携体制構築に当たっての課題出し

※第1回は上記①②の一部、第2回は②の一部と③④を対象に実施

机上演習モデル事業(平成31年度事業(千葉県))

5. 演習の詳細・進め方

